

2005年2月28日

株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町

2-5 F・Kビル

TEL.03-3664-5841 FAX.03-3661-7696

URL : <http://www.group.fuji-keizai.co.jp/>

広報部 03-3664-5697

機能性塗料・コーティング市場調査を実施

- 機能性塗料・コーティング市場は2008年に8,415億円規模へ(対04年比 111%) -

総合マーケティングビジネスの(株)富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 表 良吉)は、その特性を活かし、建築・土木材料、自動車、エレクトロニクス部材、電化製品、日用品など幅広い分野で使用されている機能性塗料・コーティングに関しての市場調査を行った。その結果を報告書「2005年版 機能性塗料・コーティングの現状と将来展望」にまとめた。

< 調査結果の概要 >

機能性塗料・コーティング全体市場規模

2004年 7,563億円 2008年予測 8,415億円(対04年比 111%)

機能性塗料・コーティング材は塗布・コートすることで被塗物の高付加価値化・高品質化がはかられ、更なる研究開発・製品改良を行うことで使用範囲の拡大が見込まれる。研究開発・製品改良では、機能性向上、新機能付与はもちろんのこと、近年では特に環境対応が重要なテーマとなっている。VOC対策を筆頭に、有害物質対策、リサイクルなどの環境・安全性向上に向けた取り組みが目立っている。いずれの問題も以前から課題として上がっていたが、シックハウス・シックスクール問題、地球温暖化などがクローズアップされていく中で、欧米諸外国に遅れながら日本でも包括的なVOC規制が開始されることが決定している。塗料の弱溶剤化、水性化、ハイソリッド化、粉体化のほか、塗布機器や塗装ラインの改良などの点で対策が進められている。その他、販売企業の海外生産・グローバル化が一般化しており、特に自動車では同品質の製品を世界各地で求める傾向があり、塗料メーカーの海外生産、技術提携などが進んでいる。光学機能や電気・電子機能など、エレクトロニクス部材に使用される機能性コーティング材料では、日本メーカーが主導しているケースが多く、同分野でもグローバル化が進展している。

1. 機能性塗料市場 4分野(光学機能、電気・電子機能、熱的機能、機械・化学機能) 32品目

2004年 2,407億円 2008年予測 2,968億円(対04年比 123%)

< 注目分野 >

光学機能分野

2004年 651億円 2008年予測 923億円(対04年比 142%)

調査対象：蓄光塗料、蛍光塗料(蛍光体)、UV硬化塗料(トップコート)、UV遮断塗料、光ディスクコーティング材料、光ファイバーコーティング材料

光学機能分野では、需要量の50%弱を占めているUV硬化塗料、需要金額の2~3割程度を占める光ディスクコーティング材料、光ファイバーコーティング材料の需要トレンドの影響が大きい。UV硬化塗料は、建材・木工分野を中心に多岐に亘る用途展開がされており、堅調に推移している。圧倒的なウエイトを占める建材・木工用が安定需要を確保しており、また新規用途と注目されるハードコーティング、フィルム用途は、自動車、エレクトロニクス産業の好調を背景に拡大傾向にある。

光ディスクコーティング材料は、光ディスクの需要動向に左右されるが、視聴用DVDに加えて録画用DVDの普及で2003年から高成長を遂げている。またBD、HD-DVDなど次世代光ディスクの普及が見込まれる2006年以降には、使用量の増加により、コーティング材料も更なる拡大が予測される。

< 注目品目 >

(1) 蛍光塗料

2004年 221億円 2008年予測 321億円(対04年比 145%)

蛍光塗料は、主力市場であるカラーCRT用途の国内は需要がなくなったが、中国を始め世界では生産量が増えている。主流となりつつある中国市場では、日系メーカーと地元メーカーとの競争が激化してきている。PDP用途は、ここ数年順調に伸長してきている。今後は、ナノ蛍光体によるバイオチップ、量子ドットへの応用などにも

注目が集まる。

(2) 熱発泡性耐火塗料

2004年 3億円 2008年予測 35億円(対04年比 1167%)

熱発泡性耐火塗料は、建築基準法改正を機に屋内・見え掛かりと限定的ながら一般建築用鋼材に使用可能となり、更に現在では、屋内、屋外とも1時間耐火に適用、他の耐火被覆材と同等に使用されている。薄膜で高レベルの耐火性が得られるメリットは他に類を見ないものであり、規制が緩和されたこともあって市場は大きく変化している。塗布することで高レベルの耐火性能が得られる最大のメリットが評価され、ユーザーも民間及び官公庁へ需要範囲が拡大している。現場施工での普及の後には、将来的に鉄骨・鉄筋にライン塗装への需要化拡大も期待されており、市場は今後も高い伸び率で推移すると予測される。

2. 環境適合性塗料 9品目

2004年 1,473億円 2008年予測 1,652億円(対04年比 112%)

汎用製品である、エマルジョン塗料、水溶性樹脂塗料、粉体塗料の3品目で塗料全体の9割以上をしめている。しかし、自然塗料やゼロVOC水系塗料など他の環境塗料の需要も年々拡大傾向にあり、需要規模は小さいものの注目を集めている。水溶性塗料、粉体塗料、自然塗料、ゼロVOC水系塗料、PETボトルリサイクル塗料の成長が目立っており、エマルジョン塗料など他の塗料は成長性が低くなっている。

<注目品目>

(1) 自然塗料

2004年 35億円 2008年予測 66億円(対04年比 189%)

建築基準法改正や住宅品質確保促進法、住宅性能表示制度が整備され、ホルムアルデヒド等の室内汚染物質発生に対する制限が厳しくなることで、一般消費者、及びハウスメーカーや建材メーカー、家具メーカーなどにおいても自然塗料が注目されている。用途としては、室内外の木部塗装を中心とした現場塗装用途が主である。また従来からの用途に加えて、建材や家具などの工場ライン塗装に関する引き合いも増加しており、両用途とも引き続き拡大傾向で推移すると予想される。特に、ライン塗装化が本格的に進展していけば、量産化から市場はさらに飛躍的な伸長が見込まれる。

(2) PETボトルリサイクル塗料

2004年 36億円 2008年予測 62億円(対04年比 172%)

回収PETボトルから再生された樹脂を使ったアルキド樹脂塗料は年々減少傾向を続けているが、それに比べて同過程から製造される環境対応のリサイクル塗料は増加傾向にある。今後もメーカー、ユーザーともに環境に対して取り組んでいく姿勢が継続していくと考えられる。アルキド樹脂塗料代替として、リサイクル塗料に置き換わっていくと予測されることから、当該塗料は成長を続けていくと予測される。

3. 汎用塗料 7品目

2004年 3,682億円 2008年予測 3,795億円(対08年比 103%)

機能性塗料と比較して汎用的に使用され需要規模が大きく、古くから市場が確立している塗料である。既に成熟化している市場が多く、その市場、製品特有の要因というよりも、むしろ景気の低迷やユーザーの海外移転などの経済状況の影響を受けており、市場の大半は横ばい、または減少傾向で推移している。その例として、自動車用塗料(新車用・補修用)、プラスチック用塗料、PCM用塗料、路面標示用塗料などが挙げられる。重防食塗料については、これまでは他の汎用塗料と同様に景気低迷及び公共事業の落ち込みなどから低迷していたものの、フッ素樹脂系など高付加価値品の採用が増加していることで、金額ベースでは当面は大きく拡大することが予測される。

調査対象

分類項目	品目名
光学機能	蓄光塗料、蛍光塗料（蛍光体）、UV硬化塗料（トップコート）、UV遮断塗料、光ディスクコーティング材料、光ファイバーコーティング材料
電気・電子機能	帯電防止塗料（塗装材）、導電性塗料（電磁波シールド塗料）、電気絶縁塗料、半導体コーティング材料（液状封止材）、バッファコート膜、マグネシウム合金用塗料
熱的機能	耐熱塗料、熱発泡性耐火塗料、太陽熱遮断塗料、遮熱性舗装用塗料、赤外線反射塗料
機械・化学機能	弾性塗材（弾性吹付材）、超厚膜塗料（ウレタンエラストマー型）、結氷・着雪防止塗料（超はっ水性塗料）、水中硬化型塗料、フッ素樹脂塗料、アクリルシリコン塗料、その他高耐候性塗料、結露防止塗料、耐酸性雨塗料、非粘着塗料（フッ素樹脂コーティング）、船底防汚塗料、制振塗料、落書き防止塗料、木部保護塗料
環境適合型塗料	エマルジョン塗料、水溶性樹脂塗料、粉体塗料、ゼロVOC水系塗料、光触媒塗料、光触媒コーティング材、PET ボトルリサイクル塗料、自然塗料、生分解性塗料、天然素材配合塗料
汎用塗料	自動車用塗料（新車用）、自動車用塗料（補修用）、プラスチック用塗料、PCM用塗料、缶用塗料、重防食塗料、路面標示用塗料（トラフィックペイント）

調査期間

2004年12月～2005年1月

以上

資料タイトル：「2005年版 機能性塗料・コーティングの現状と将来展望」

体 裁：A4判 325頁

価 格：97,000円（税込み 101,850円）

調査・編集：富士キメラ総研 第二研究開発部門

TEL:03-3664-5841 FAX:03-3661-7696

発 行 所：株式会社 富士キメラ総研

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町2-5 F・Kビル

TEL03-3664-5841（代）FAX 03-3661-7696 e-mail:koho@fuji-keizai.co.jp

この情報はホームページでもご覧いただけます。URL:<http://www.group.fuji-keizai.co.jp>